

大学職員情報化研究講習会報告書

1. 目的

社会に通用する人材を育てる。

2. テーマ

SNS・VRデバイスを使った学生の目標発見と主体性向上サポート

3. テーマ設定にあたって

D-3班では、大学の役割とは社会に通用する学生を輩出すること、すなわち、答えのない社会の問題に積極的に取り組む主体性を備えた人材の育成であると考えた。学生の主体性を育てるためには、失敗、成功どちらの経験も踏まえた『経験の場』を提供することが重要である。しかしながら、いくら大学側が経験の場を提供したとしても、学生がそれを利用しなければ意味がない。学生の積極性を引き出すためのきっかけを与える手段として、学生の利用率が高いSNS及びVRデバイスの活用できるのではないかと考え、このテーマを設定した。

4. 現状と問題点

①現状

学生の主体性を引き出す方法を考えるうえで、まず必要なことは現状の把握である。D-3班にて大学の現状を話し合ったところ、主に「やる気がない学生、何をしたら良いかわからない学生」が多く、主体性を持った学生ばかりではないという意見が出た。

②問題点の深堀

現状から把握できる問題点をより深く考察した結果、やる気が出ない背景には、目指すべき姿、すなわち目標が学生自身の中で明確化していないことにあると考えた。

在学生の中には、なんとなく入ってきた学生、不本意入学の学生が少なからず存在している。周りの人が大学に進むから、親が大学進学を勧めたからなど、目標なく入ってきた学生や親や先生の意向に従ってきた学生の多くは、自ら考え、物事に取り組むことが苦手である。そこで逆の視点から見れば、目標を見つけた学生は主体性を発揮し行動するのではないかとという仮説を立てた。

5. 解決策の検討

現状と問題点を踏まえ、大学でできることは何かを考えた際、2段階に分けて経験の場に行き着くためのステップを作ることを考えた。方法は以下のとおりである。

◆ステップ1：やる気を引き出す

いくつかの目標（ロールモデル）を提示し、自らが進むべき道を見つけるためのサポートを大学が行うべきである。そのサポートを行うツールとして提案したいのが、学生に密着したSNSツールである「インスタグラム」の導入である。視覚による情報は一番学生にも訴えかけやすく、さらに取り組みやすさを感じさせる。学生は自分の興味・関心に従ってインスタグラムの写真を見ながら、次第に主体的に調べることが期待される。

ただ、インスタグラムは誰でも閲覧が可能であるため、掲載する写真・動画は質と安全を確保する必要がある。以下のように運用、管理をすることで、インスタグラムの質と安全性を確保しつつ、学生が目標を見つけるためのきっかけとなると考える。

<インスタグラムの運用方法>

- ①大学のアカウントを作成（公式のもので安全性を確保）
- ②写真の収集は、学生広報委員による撮影で、職員の負担を減らす。
また、ロールモデルとなる収集率向上を狙い、キャンペーンを設ける。
- ③集めた写真の中から、大学側の規定にのっとって写真を厳選する。
また、公開時期についても常に掲載するのではなく、時期にあった写真を調整し公開する。
- ④集まった写真については、大学のHPに集約し、公開する。

※全ての写真において、個人情報保護のルールにのっとり、提供元の学生又は卒業生等に対して、許可を得たうえで掲載する。

◆ステップ2：主体性向上のサポート

ステップ1にてやる気を持ち、主体性が芽生え始めた学生は、見つけた目標に向かって行動を起こすと考えられる。その行動に対して、大学側がサポートを行う必要があるが、サポートを行うにあたって学生の興味・関心をより深めるためのツールとして活用できると考えられるものがVRデバイスである。VRの良さは実際に現場に行かずともリアルな体験ができることにある。それにより、遠隔地であっても疑似体験が可能になる。このVRデバイスは以下のように利用することで学生の様々な事情（例えば費用等の関係で実際に体験できないこと）にも、対応できるようになるのではないだろうか。

<VRデバイスの利用事例>

- ① コンテンツの収集により、自大学の授業はもちろんのこと、将来的には他大学や海外の大学とも提携し、幅広い学びを提供できるようにする。
- ② リアルな就学・就業体験の場として提供を行う。
例えば、医学部や薬学部、歯学部の医療現場など、医療体験の体験プログラムを作成する。

以上、1と2のステップを踏むことで、学生は目標を見つけ、さらには主体的に行動できるようになると考える。